

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年7月13日(月)

みんなの居場所

夏休みまで残すところ4日となりました。子ども達の心はすでに夏休みに入っているかもしれませんね。

私達学校で働く者としても、リフレッシュするこの1週間において楽しみにしています。毎年心配することがあります。それは、子ども達の事故やケガです。夏のレジャーは、水難事故も非常に心配です。外に出る機会が多くなればそれに伴って交通事故の心配もあります。事故やケガは注意していれば防ぐことができます。そのためには、今まで行ってきたこと、学んだことを、確実に実践することしかありませんね。

有意義な夏休みになるように、基本的な生活のルールを守って楽しい夏休みを送ってほしいものです。

【雑感】職能の更新

自分自身の職業能力を更新し続けるためには何より「素直さ」が必要だと思う。素直さというのは何でも「はい」と言うのではなく、考えがひねられていないということだ。私自身、成功、失敗の経験もそのなりに重ね、経験則による自信もついてきた。それ故だろうか、自分の考えを押し付けることがあるようだ。

職能を更新していくためには素直さが必要だ。更には、自分自身の知識や専門性に疑問を持てるかどうか、重要だと思う。年齢を重ねると経験値から物事を判断し、部下や子ども達の柔軟な発想をやる前から無理に決めつけようとする。

学校では、校長だからとか、教頭だからとか、教諭だからとか、役職の差があっても目指す目標は同じであり、時代に合わせて職能を更新していく必要がある。言い換えるならば、自分が築いてきた実績を捨てる勇気があるかどうかということだ。

どんな職業についても同じであろう。時代に合わせた職能の更新は、職業人として当然行わなければならない義務であり、責任であると思う。

夏の夜空のイベント

夏休みになると必ず流れ星を観ることが出来ます。お盆の前頃にペルセウス座流星群について、運が良ければ1時間に40〜60個程の流れ星が出現する現象があるからです。

今年のペルセウス座流星群の活動が活発になる時期は8月13日頃です。11日から14日頃までは確実に流れ星を見る事ができるでしょう。月明かりと反対側を観ていけば明るい流れ星が見えるはずです。普段よりも多く流れ星が見られる時期ですから晴ればほぼ100%見ることが出来ます。雨は心配ですが、普段より目立って多くの流れ星を観ることが出来るのは11日の夜から14日の夜までです。夜9時頃から流れ星が出現するようになり、夜明けに近づくにつれて流れ星の数が多く(多い時は1分に1個流れ星!)なるでしょう。

せっかくなので夏休みもついでに案内。8月は、土星や惑星の観測の好機です。低倍率の望遠鏡や双眼鏡でも土星の輪がはっきり見えます。私も一度望遠鏡で見てもらった事がありますが、土星の輪を見た時はとても興奮し、感動しました。やはり実物は臨場感が違います。

丁度、お盆休みと重なりそうですので、ご家族で観察してみても如何でしょうか。レジャーシートを敷いて地面に寝転んで観るか、リクライニングシート等があればのんびり観望できます。大人は夕涼みに一杯やりながらでもいいかもしれませんね。事故に遭わないよう十分注意し、マナーを守って観望をお願いします。

シリーズ「自分を語る」#1113

その年の私は、学級が安定傾向にあったため校務にかなりの時間を費やしました。校内研究について、保護者の皆様からは「何のことか」と思われるかもしれません。簡単に言いますと、私たちが学校の先生には常に指導方法を更新していく義務があり、授業のスキルを磨くために勉強しなければならぬということです。私は他の先生方が授業のスキルを上げることでできることにお世話をすべく役でした。誰もがスキルを上げていくためには、自ら授業を公開し他の先生方から意見を頂いたり指導して頂いたりしなければなりません。しかし、どの先生も授業をお願いしても、なかなか首肯し振ってほぐれませんでした。普通そうである。準備中に時間がかかりますから、気持ちの解きほぐし。じゃあどうするか。簡単に、私がすればいいだけの事です。私は新しいことに挑戦する人間には、あまの配下があつたのでした。当時の学級指導委員の求めていることを自分の学級で試すことができる。こんな実験的な試みは何かソコソコ(ソコソコ)はなな(なな)。

てな訳で1回目の研究授業は「道徳」でした。結果は、散々なものでした。といふより、当時の校長先生が考える授業、あるいは学級指導委員が求める姿とはかけ離れたものでした。私の授業は旧態依然とした、問一答式の授業となっていました。活発に意見が出ているようにも見えましたが、子ども達同士の意見の交流や学び合いの場面で設定できなかったのです。優れた先生方の優れた授業は、子ども達が活発に学び合う場面が設定されていました。それがこの時の研究授業ではできていなかったのです。

それから数日後、私は計画には無かった研究授業を行うことになりました。校長先生の指導の下、子ども達の考えや意見を繋いでいくサポートを行い、授業を組織することにしたのです。自分達で意見を繋いでいく姿は感動的でした。現在、府本小学校でも実践していること重要な部分が多いです。優れた授業というのは、児童が主体的、協働的に活動する授業であり、その様な授業を「ティーチング」することが出来る教師が優れた教師といえるのでしよう。

この授業をきっかけにして、他の先生方も授業を公開してくださるようになりました。私はこの年に5回の研究授業を行いました。道徳、外国語、体育、算数、特別活動…。今思い出せば何とも作れない恥ずかしい授業ばかりでした。でも今になって考えれば、その時の学びは自分の糧となっていますし、良い思い出になっています。

研究発表会は11月でした。当口まことに研究紀要を作成しなければならず、実質、紀要の原稿作成は夏休み中に行わなければならませんでした。夏休みに入るとすぐに校長先生からお呼びがかかるました。

「研究紀要原稿のフレンゼンは、夏休み中で作成してね。出来れば、お盆前までに作成して。」「まじですかー。」「あ、あ、あ、俺も手伝うわー。」「これをきいてから、校長先生の自宅に作業する日も数日ありました。(つづく)